

入試情報

募集人員、出願要件、選抜方法などの詳細は、必ず最新の募集要項で確認してください。（山口大学入学選抜要項は7月上旬頃、学校推薦型選抜Ⅰ募集要項は9月下旬頃、一般選抜募集要項は11月下旬頃に公表する予定です。）

募集人員

	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜Ⅰ	帰国生徒入試
		前期日程	後期日程		
生物資源環境科学科	50	30	6	14*	若干名
生物機能科学科	50	31	9	10*	若干名

※生物資源環境科学科は“農業に関する学科等”4名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科等”1名を含んだ募集人員です。

学校推薦型選抜Ⅰ（共通テストを課さない）の出願要件

学習成績、人物ともに優れ、高等学校長が責任を持って推薦できる者で、合格した場合、入学を確約できる者が出願要件となります。
※他にも調査書の学習成績の状況等、学科や対象ごとに要件があります。

帰国生徒入試の出願要件

日本国籍を有する者または日本国の永住許可を得ている者で、外国において2学年以上継続して学校教育を受けた者などが出願要件となります。

選抜方法

	一般選抜		学校推薦型選抜Ⅰ	帰国生徒入試
	前期日程	後期日程		
試験内容	大学入学共通テスト + 個別学力試験※	大学入学共通テスト + 個別学力試験（面接）	小論文 + 面接 + 出願書類	

※詳細は最新の募集要項をご確認ください。

過去3年間の志願倍率

入試年度	入試種別	生物資源環境科学科		生物機能科学科	
		募集人員	志願倍率	募集人員	志願倍率
令和5年度 入学選抜試験	推薦入試	10 ^{※1}	1.5	10 ^{※1}	1.6
	前期日程	33	2.4	31	2.0
	後期日程	7	8.9	9	8.7
令和6年度 入学選抜試験	推薦入試	10 ^{※1}	2.9	10 ^{※1}	1.8
	前期日程	33	2.2	31	1.6
	後期日程	7	15.1	9	6.3
令和7年度 入学選抜試験	推薦入試	14 ^{※2}	1.6	10 ^{※2}	2.7
	前期日程	30	2.3	31	2.0
	後期日程	6	7.2	9	6.8

※1 令和5・6年度入学選抜試験について、生物資源環境科学科は“農業に関する学科等”2名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科等”1名を含んだ募集人員です。

※2 令和7年度入学選抜試験について、生物資源環境科学科は“農業に関する学科等”4名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科等”1名を含んだ募集人員です。

このリーフレットは農学部学生広報部員が中心となって作成しています。



お問い合わせ先

入試に関するお問い合わせは下記をお願いします。

山口大学農学部学務係

〒753-8515 山口市吉田 1677-1
TEL：083-933-5811 FAX：083-933-5812
E-mail：aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp
入試情報ホームページ
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/nyushi/>



農学部

食と環境の未来をつくる



山口大学農学部HP

農学部はこんな学部です！

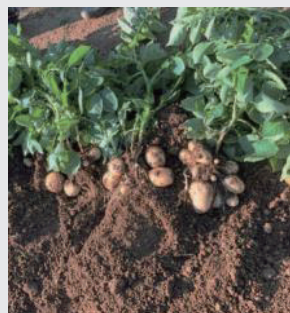
農学は、農業や食品生産業が抱える課題を生物学・物理学・化学等の視点から解決し、人類社会の持続的な発展を目指す学問です。

農学はいくつもの顔を持っています。食料や健康、生命現象、環境等を脅かす問題を生物学・化学・物理学・地学・数学等を駆使して解決します。

学科の特徴

生物資源環境科学科

農業に関する諸問題の解決方法を合理的に導き出し、効率のかつ安全で持続可能な食糧生産の実現を目指して幅広い分野の教育・研究を行っています。



実習での芋堀り



ハイパースペクトルカメラによる分光反射測定

講義では、植物の生理や栽培方法についてはもちろん、農地の土壌や気象、病害虫、食料の流通といった幅広い分野も総合的に学びます。さらに、学生実験や農場実習では農業を実践的に学び、理解を深めます。



トウモロコシの苗の植え付け



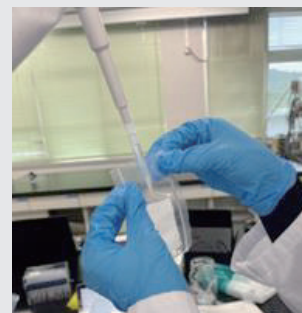
畝作りの様子



土壌中の陽イオン測定実験

生物機能科学科

植物や微生物、動物のタンパク質の機能や先端バイオテクノロジーについて学び、人間の健康や環境改善に役立てる教育と研究を行っています。



抗体をタンパク質に結合させている様子

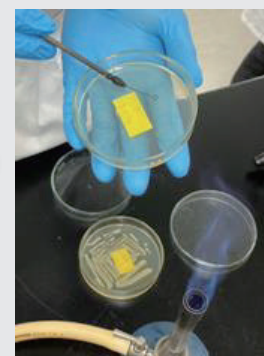


滅菌操作を行うオートクレーブ

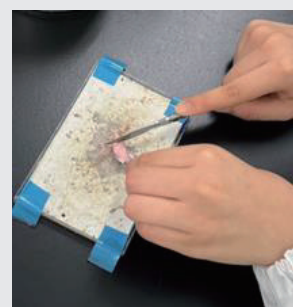
講義では、タンパク質の構造や機能、微生物・植物の生理機能など、生物・化学の専門的な内容を学びます。学生実験では、細胞や細菌への遺伝子導入、組換えタンパク質の精製やDNAの電気泳動などを行います。



筋肉繊維の観察の様子



菌を培地に伸展させている様子



マウスの肝臓を切断する様子

研究テーマ一覧

生物資源環境科学科

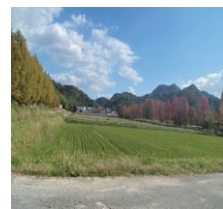
- ・作物の多収性・高品質性についての生理生態学的解析
- ・乾燥地など耕作不良環境でストレスに強い作物栽培
- ・植物の代謝物を利用した新しい育種法の研究開発
- ・野菜・花きのゲノム育種および植物工場栽培に関する研究
- ・果樹の諸形質・遺伝に関する研究
- ・植物病原糸状菌の感染機構に関する研究
- ・イノシン・クマ等の生態学的研究と保護・管理への応用
- ・アジアにおけるシロアリの多様性維持に関する研究
- ・副産物石膏の農業的利用
- ・土壌有機物の微生物分解に対する安定化機構の解明
- ・降水雲および降雪雲内の雲物理学的直接観測研究
- ・画像による植物生体情報解析
- ・温室や植物工場における環境制御技術の開発
- ・植物病原微生物の診断・検出技術の開発
- ・黄砂発生メカニズムの解析・植生のリモートセンシング
- ・極度の劣化・損傷を受けた農業インフラの非破壊検査法

生物機能科学科

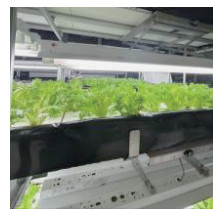
- ・生物と食における香りの機能性に関する研究
- ・金属イオンの役割に着目した金属酵素反応機構の解析
- ・哺乳類神経筋システムの適応に関する生理・生化学的研究
- ・昆虫食の健康機能性評価とアンチエイジング食品成分の探索
- ・蛍光タンパク質を用いた細胞内代謝解析技術の開発
- ・植物代謝酵素の機能解析と有用物質生産への応用
- ・植物の香りの生成機構とその生理的役割の解明
- ・植物の光合成を調節するタンパク質の立体構造と機能の解析
- ・染色体倍化が植物の成長・生殖に及ぼす影響の解析
- ・サンゴに共生する微生物の機能解明
- ・微生物の持つ特異な機能の理解と利用
- ・微生物が行う酸化発酵の解析と利用
- ・微生物酵素の解析と有用素材生産への応用
- ・微生物の温度適応機構の解析と応用
- ・病原微生物の宿主への付着と定着
- ・ゲノムから見る微生物の環境適応と進化

関連施設の紹介

農学部には、キャンパス内にある「附属農場」や制御された環境で植物の栽培技術を開発する「植物工場」があります。また、農学部と関連の深い施設として、地球温暖化に起因する課題について研究する「中高温微生物研究センター」があります。



附属農場



植物工場



中高温微生物研究センター



学科教員からのメッセージ

生物資源環境科学科

教授
荒木 英樹



生物資源環境科学科のカリキュラムや研究は、作物や野菜などの生物生産、それらを取り巻く環境、農業の経済的な役割などが幅広く学べるようになっています。「いろいろなことに興味がある」「これから進路を考えたい」という人にはうってつけです。実習や演習、実験も学年が上がるにしたがってスキルアップできるようになっていて、4年生になる頃には、自信をもって進学や就職に立ち向かえるスキルが身についていることでしょう。大学生活に関する情報発信も心がけていますので、HPやSNS、オープンキャンパスにもご注目下さい。

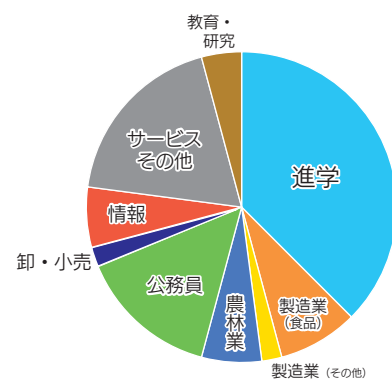
生物機能科学科

教授
宮田 浩文



生物機能科学科では、生物の有する機能を遺伝子、タンパク質、化合物、細胞の解析を通して明らかにし、食、健康、環境に関する課題解決に貢献できる人材の育成を目指しています。化学、生化学、微生物学、食品化学にデータサイエンスを加えた講義と実験に基づいて、生命のしくみを理解し、高度なバイオ実験技術を習得できるように体系的なカリキュラムを準備しています。生物・化学を中心とした自然科学の探究から、食を中心とする関連産業の発展への貢献を期する学生さんと一緒に最先端の研究に取り組めることを楽しみにしています。

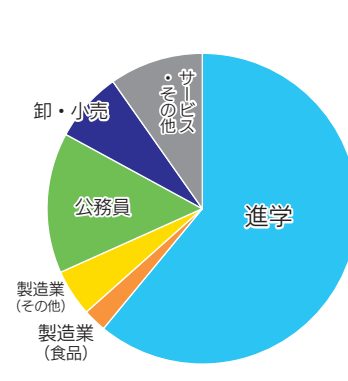
卒業後はこんな未来が開けています



生物資源環境科学科

企業等例
製造

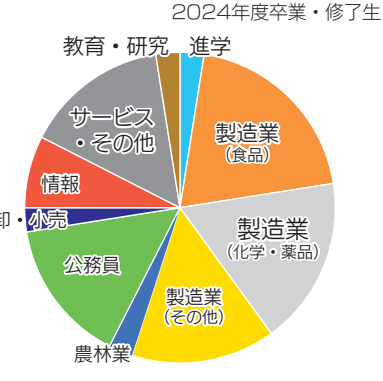
- （食品・農業）：森永乳業株式会社、カルビー株式会社、株式会社久原家グループ、キューサイ株式会社、共栄フード株式会社、三菱商事ライフサイエンス株式会社
- （化学・薬品）：積水メディカル株式会社、沢井製薬株式会社、株式会社大阪製薬、日新化工株式会社
- （その他）：曾田香料株式会社、クラシエ株式会社
- 卸・小売：株式会社コスモス薬品



生物機能科学科

情報：株式会社ドコモCS九州
サービス・その他：日本航空株式会社、中国電力株式会社、三菱地所ホテルズ&リゾーツ株式会社、株式会社アウトソーシングテクノロジー、株式会社福山臨床検査センター

- 公務員：農林水産省、財務省 大阪税関、山口県、広島県、福岡県、長崎県
- 教育・研究：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構、国立大学法人 山口大学



大学院

学生の研究紹介

農学部

生物資源環境科学科
4年
前田 桃花



病原菌に感染した桜の遺伝子の研究

サクラてんぐ巣病は、病原菌の感染によってサクラの花が咲かなくなり枯れてしまう病気です。私はこの病気に感染したソメイヨシノの花や葉を採取して遺伝子を解析し、なぜ花が咲かないのかを研究しています。この病気の感染メカニズムや治療方法はわかっていません。これを解明することで効果がある農薬の開発や抵抗性品種の育種につなげることができます。



菌を扱う様子

高校生へ一言

座学だけでなく、実習や研究も日々アップデートの毎日です。学んだ知識や得た技術が自身の身近で生きていく部分が、農学のすてきなところではないかと私は思います。



てんぐ巣病が
みられるサクラ

大学院 創成科学研究科

農学系専攻
博士前期課程1年
佐藤 悠奈



微生物の増殖速度操作技術の開発

私はモデル微生物を用いて微生物の増殖速度を操作できるか調べています。環境中には医薬品や廃水処理などに関わる有用微生物が存在していますが、この有用微生物の増加速度が遅いことが懸念点です。これらの微生物の増殖速度を向上させることができれば、微生物の産業利用の発展に繋がると考えています。研究を進め、最終的に増殖速度を操作する技術の開発を目指しています。



シャーレから菌を
取り出す様子

高校生へ一言

農学部では幅広い分野の講義や実験を通じて、教科書だけでは得られない知識や技術が身につきます。自分の興味を深く追求できる環境で、新たな可能性に出会えるはずです。



微生物の培養と増殖の
測定を自動で行う装置